令和３年度　学 校 経 営 計 画 に 対 す る 最 終 評 価 報 告 書

石川県立大聖寺実業高等学校

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果%	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1	基本的生活習慣の確立を基盤とし、生徒の自己調整力を高めることにより、自立した学習習慣の確立を図る。	①	本校の授業心得を周知し、授業規律の徹底を図るため、校内外の挨拶を積極的に励行する。また朝礼や授業開始時にロッカーの上や机の周りを点検し、乱れがあれば片付けさせる。	毎日、自ら積極的に挨拶することを心がけ、実行している生徒および教員の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	【生徒】【教員】 評価　Ａ　Ａ 後期　96%　100% 前期　94%　100%	集計結果では、生徒の９６％、教員の１００％が、自ら積極的に挨拶することに取り組めたとの結果であったが、しっかりとした挨拶には、まだ課題も多い。また、授業を受ける姿勢についても指導を受ける生徒が若干名いるのが現状である。挨拶や授業への取り組み姿勢は、本校の最も大切な取り組みと考えている。今後も、各課並びに科目担当者との連携を図り、共通認識を深める必要がある。
				私たちの教室は整理整頓されており、学習に相応しい環境であると感じる生徒および教員の割合が Ａ　９５％以上 Ｂ　８５％以上 Ｃ　７５％以上 Ｄ　７５％未満	【生徒】【教員】 評価　Ｂ　Ｂ 後期　92%　91% 前期　94%　88%	整理整頓されていると感じている生徒は９２％、教員は９１％と、ともにＢ評価であった。生徒アンケートでは「ロッカーの上が汚い」などマイナスな意見も見られた。今後も教室環境の具体的項目について教員の共通理解を図り、環境美化に関して意識を高く持たせるように継続して指導していきたい。
		②	スキルアップタイムを活用した学習を通して、将来の産業人として必要な基礎学力の定着を図る。	基礎的な内容について学力が向上したと感じる生徒の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８５％以上 Ｃ　８０％以上 Ｄ　８０％未満	評価　Ｂ 後期　８６％ 前期　８９％	肯定的な意見の割合は８６％でＢ評価であった。全体的には、落ち着いて取り組めているが、クラスによって学習姿勢が身に付いていない生徒がいる。今後は、スキルアップタイムの内容を吟味するとともに、教育支援システムの活用方法を見直すなどの対策を検討し、努力を要する生徒が、確実に学力向上するよう努めていきたい。
		③	集会やＷｅｂ等による定期的な指導を通して、規範意識の高揚と校則の遵守を身につけさせる。	昨年度と比べ、指導件数が Ａ　２０％以上減少 Ｂ　１０％以上減少 Ｃ　１０％未満減少 Ｄ　増加した	評価　Ｄ 今年度　８５件 昨年度　６０件 ２月末比較	今年度、「携帯電話の不正使用」に関して、指導強化月間を設け、巡回指導を実施した結果、指導件数が増加した。校内での使用についての規範意識を深める為にも効果的な方策であったと思われる。また、繰り返し指導を受ける生徒が一部おり、家庭と連携してその指導にあたった。学年が進むにつれて指導されなくなった生徒も多数おり、規範意識の高揚は、一定の効果は現れている。今後も様々な手法で、指導を受ける生徒の減少に努力していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・高校生達が、元気いっぱいであるのとそうでないのとでは、地域の雰囲気が大きく変わる。バイタリティーのある子ども達を育てる学校であってほしい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・「無遅刻」や「明るく元気な挨拶」の奨励を中心とした人間力の育成に努め、地域企業の発展に貢献できる人材育成を目指す。

重点目標		具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果％	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
２	情報共有社会を見据えたＧＩＧＡスクール構想が進展する中、「主体的・対話的で深い学び」の実践をとおして、活用できる知識とスキルを育み、地域に期待される人材を育成する。	① 学習意欲を喚起する授業の工夫と一人一人が主体的に取り組む学習指導を推進する。	ＩＣＴの活用やアクティブ・ラーニング等の手法を授業に取り入れている教員の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	評価　Ｃ 後期　７４％ 前期　７６％	肯定的な意見の割合は教員７４％でＣ評価。しかし、生徒による授業評価アンケートでは、「ＩＣＴ機器を利用した授業である」と回答した生徒は全体の８０％を超えた。生徒と教員には若干の差があるが、今後も継続した研修会等の計画をおこないＩＣＴの効果的活用を推進していく。
		② 質問に対して、根拠や理由を示して答えさせることで深い学びにつなげる。	学習内容について力がついたと感じている生徒および教員の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	【生徒】【教員】 評価　Ａ　Ａ 後期　95%　94% 前期　94%　85%	肯定的に回答した生徒の割合は９５％であった。「資格取得に向けて、計画的な取り組みができているか」との問いに対しても、８０％台後半の生徒たちが肯定的な回答をしている。一方、肯定的に回答した教員の割合は９４％であり、授業改善の工夫が感じられる数値である。今後とも、生徒が学びの実感を持てる授業への転換をより一層進めていく。
		② インターンシップおよび長期企業実習（デュアルシステム）を通して、主体的なコミュニケーションで問題を解決する能力を高める。	インターンシップ・デュアルシステムは、主体的なコミュニケーション能力の向上に役だったと感じている生徒・保護者の割合が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％以上 Ｃ　７０％以上 Ｄ　７０％未満	【生徒】 評価　Ａ ９４％ 【保護者】 評価　Ｂ ８７％	アンケート結果によれば、生徒の９４％、保護者の８７％が、インターンシップ等の行事でコミュニケーション能力が向上したと答えている。 企業実習に向けて、挨拶にとどまらず、積極的なコミュニケーションを意識することの大切さを継続して指導してきた結果、生徒の大部分が、問題解決に役立ったと回答している。今後も、社会と関わりのある行事を充実させ、生徒に社会人として必要な資質・能力を育成していきたい。
		③ 生徒手帳や資格カレンダーを活用し、計画的、主体的に資格取得に取り組む力を育成する。	資格取得に向けて計画的に取り組んだと思う生徒・保護者の割合が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０％以上 Ｃ　６０％以上 Ｄ　６０％未満	【生徒】 評価　Ａ ８９％ 【保護者】 評価　Ｂ ７５％	計画的に取り組んだと肯定的な回答をした生徒の割合は８９％でＡ評価。しかし、意欲や姿勢が見えた保護者の割合は７５％のＢ評価に止まった。資格取得に向けた意欲的な取り組みを促すため、補習など検定試験の合格に向けた取り組みを実施したが、保護者からは、取得する目的を理解していないとの意見をいただいた。今後は、資格カレンダーの活用を定着させるとともに、ホーム内での確認やガイダンス場面をより一層工夫する方向で改善していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・コロナ禍であっても、デュアルシステムやインターンシップなど多様な体験の機会を充実させ、地域に貢献できる人材育成を今後とも続けてほしい。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止に関する対策とコロナ禍でのオンライン学習などを充実したものにしてほしい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・地域社会との連携に努め、非認知能力等への影響の大きい体験プログラムを重点化して行うなど工夫し、主体的な行動・判断ができる生徒育成を進めていく。 ・教材研究をより丁寧に行い、教員が授業を工夫し、オンライン学習の充実に努めていく。

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果%	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
3	学校の教育活動全体をとおして、将来の産業人として求められる人間力を磨き、他を思いやる人間性を涵養する。	①	生徒一人ひとりの生徒会活動への参加意識を高め、行事を通して人間的成長を図る。	生徒会行事（聖実祭、ホーム対抗行事）で自ら積極的に取り組んだ生徒の割合が A　９０%以上 B　８０%以上 C　７０%以上 D　７０%未満	評価　A ９６%	生徒会行事への参加率は極めて高く、当日の生徒たちの様子も、概ね行事を楽しんでいるように見える。生徒一人ひとりの生徒会活動への参画意識を高め、行事を通して人間的な成長に繋げることに取り組んだ成果だとも言える。今後は、生徒の意見がより多く反映された、より自主的な行事づくりを行い、さらに積極性を高めていきたい。
		②	ボランティア活動に積極的に参加することで、奉仕の精神や郷土愛を育む。	年間ボランティア活動に、２回以上参加した生徒の割合が A　８０%以上 B　７０%以上 C　６０%以上 D　６０%未満	評価　D ３３%	今年度も、新型コロナウイルスの影響で、多くのボランティア活動は中止を余儀なくされた。参加する機会がなかったと答えた生徒もいる中、これまでボランティア精神の醸成に向けて取り組んできた成果が３３%である。今後も地域の期待に応えつつ、生徒の自主性を鍛え、自己有用感の醸成に努めたい。
		③	いじめや不登校の早期発見・早期対応に向け、教員間での情報共有と連携を図る。	教職員の情報交換により、問題の未然防止や早期発見に努めている教員の割合が A　９０%以上 B　８５%以上 C　８０%以上 D　８０%未満	評価　A 後期　９１% 前期　９４%	年3回のいじめアンケートや教員相互の情報交換により、「いじめと感じた事案」については、迅速かつ早期に対応ができた。アンケート集計結果も教員の９１%が未然に防げたとの結果であった。ＳＮＳ関連の問題がいじめ等に発展しないよう、事前指導を重点的に継続する。
学校関係者評価委員会の評価			・生徒の誠実さや使命感については、指導を工夫し時間がかかっても確実に高めてほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策			・授業中の活動や学校行事において、なぜこれをするのかを気づかせる。 ・何を成し遂げるのかを明確に持たせ、生徒の達成感が得られるレベルまで到達するよう支援する。			
4	学校に対する理解を深めるため、地域社会と連携を図り、地域の活性化に貢献するとともに、若手教員が本校活性化の原動力となるよう積極的に教育活動を発信する。	①	学校Ｗｅｂページを活用し、保護者や地域等への情報提供を充実させる。	学校Ｗｅｂページによって、本校の教育活動について、よく理解できると回答した保護者の割合が A　９０%以上 B　８０%以上 C　７０%以上 D　７０%未満	評価　B 後期　８２% 前期　８１%	今年度は学校ホームページの充実に取り組み、「タイムリーな情報」をより多く提供するように努めた。集計結果として、B評価に止まったのは、「配信メールのほうが気軽に見られる」など、コロナ禍で学校からの情報は配信メールでという保護者が増えたことに原因がある。 今後は情報提供のあり方を工夫し、保護者から本校の教育活動について理解が得られるように努めていく。
学校関係者評価委員会の評価			・ホームページの更新も頻繁に行われ、新聞等にも多く取り上げられていることを見ると学校の活躍が発信されていることが分かる。 ・子ども達が課題を見つけ、試行錯誤しながら実践し、効果を検証する一連のサイクルや地域と密着した取り組みは、大変すばらしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策			・これからも地域に必要とされる学校、応援される学校を目指し、学校ホームページ等を有効に活用して本校の教育活動を発信していく。			

重点目標		具体的取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果%	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
5	ワーク・ライフ・バランスを改善するため、校務の効率化・平準化を実現し、時間外勤務の縮減を目指す。	①	時間管理の意識を高め、日頃から生徒とのコミュニケーションをとる時間を確保することに努める。	業務の効率化を意識し、生徒と向き合う時間を確保するよう努めている教員の割合が A　９０%以上 B　８５%以上 C　８０%以上 D　８０%未満	評価　A 後期　９１% 前期　９４%	している４７%、概ねしている４４%、あまりできていない９%、であった。「生徒と向き合う時間を確保している」と肯定的に答えた教員の割合は９１%となり、A評価。子ども達と向き合う時間を確保するため、今後も見通しを持って業務に取り組むなど多忙化改善に努めていきたい。
		②	若手教員とのＯＪＴを通し、探す無駄、待たされる無駄、やり過ぎる無駄を減らすことに努める。	次年度へ業務を引き継ぐことを前提に置き、メモやマニュアル等を残しながら仕事をしている教員の割合が A　９０%以上 B　８５%以上 C　８０%以上 D　８０%未満	評価　A 後期　９４% 前期　８８%	肯定的に答えた教員の割合が、目標とした９０%を超え９４%であるものの、６%の職員はあまりしていないと回答しており、業務を引き継ぐことを念頭においた対応が十分にできていないことが明らかとなった。無駄を削減し、本来の職務に専念するためには、必須のことであるという意識改革を図り、業務の見える化を通して平準化に努めていく。
		③	部活動の活動日はスポーツ科学等の根拠に基づいて設定する。	効果的な活動日を設定して、毎月の部活動計画を立てている教員の割合が A　９０%以上 B　８５%以上 C　８０%以上 D　８０%未満	評価　A 後期　９１% 前期　９７%	今年度も新型コロナウイルスの影響で、日々の活動自体に制限がかかる状況であったが、効果的に休養日を確保できたと肯定的に回答した部活動の割合は９１%に達した。県の取組方針を踏まえつつ、スポーツ障害等を未然防止する観点からも、生徒や保護者の理解を得、引き続き、効果的な部活動運営を工夫していく。

学校関係者評価委員会の評価	・限られた時間の中で、授業や部活動など大変であるが、生徒との関わりは大切。バランス感覚を持ち、多忙化改善に取り組むこと。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・多忙化改善に対する教職員の意識改革をさらに進めるとともに、部活動指導員制度を活用するなど、効率的・効果的な業務改善を目指す。